

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 18 日現在

機関番号：13101
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2011
課題番号：20530766
研究課題名(和文) 大学生のキャリア発達に応じたキャリア形成支援プログラムの開発研究
研究課題名(英文) Research and Development of the Career Formation Support Programs according to the Undergraduate Student's Career Development.
研究代表者
松井 賢二(MATSUI KENJI)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：80199728

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：キャリア発達、キャリア形成、大学生、プログラム

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、大学生のキャリア発達の程度(個人差)を考慮に入れたキャリア形成支援プログラムを開発することである。そのためには、主として次のことに取り組む。

(1) 個々の大学生の4年間(入学から卒業まで)にわたるキャリア発達の様相を把握する。そのためには、大学生のキャリア発達の程度を入学当初から4年間にわたって継続的(縦断的)に測定し続けることが必要である。本研究では主として、キャリア発達に関する質問紙調査を実施するとともに、必要に応じて個人へのインタビュー調査を併用して行う。これらのことを通して、大学生のキャリア発達の変容を明らかにする。同時に、キャリア発達の程度と大学生活の過ごし方との関係についても検討したい。

(2) 大学におけるキャリア形成支援の実際と課題を明らかにする。そのために、国内の四年制大学へのインタビュー調査とともに、先進的に若者の雇用対策に力を入れている英国の大学へのインタビュー調査も同時に行う。これらから、学生の実態に対応したキャリア形成支援の方策を考える。

以上のことを総合的に明らかにする中で、大学入学当初のキャリア発達の程度によってそれぞれに有効なキャリア形成支援プログラムを開発する。

2. 研究の進捗状況

(1) 大学生のキャリア発達の様相を把握するためには、入学当初から4年間にわたって継続的(縦断的)に測定し続けることが必要である。そこで、これまでに同一対象者に対

して、3回の質問紙調査を実施した。すなわち、研究初年度(平成20年度)に実施した質問紙調査に回答した大学1年生(410人)のうち、2回目の質問紙調査(平成21年度実施)には117人の大学2年生が協力してくれた。その翌年(平成22年度)には、第3回目となる調査への協力をその117人に対してお願いしたところ、87人が回答してくれた(回答率:74.4%)。3回の質問紙調査の内容(項目)は、主として個々のキャリア発達の程度や進路選択に対する自己効力感を尋ねる項目などである。

(2) キャリア発達の程度と大学生活の過ごし方との関係を明らかにするために、大学4年生(男子8人、女子13人、合計21人)を対象にインタビュー調査を実施した。その内容は、大学入学時からの約4年間の様子を振り返りながら、自分自身のキャリア形成にかかわる部分として、職業選択や就職活動にどのように取り組んできたか、その中での悩み(困ったこと)は何だったか、などを尋ねた。

(3) 大学においてどのようなキャリア形成支援が実際に行われているのかなどを明らかにするために、今までに6つの四年制大学の関係職員に対してインタビュー調査を実施してきた。

これまでの研究の実施概要は以上のとおりである。現在、1回目から3回目までの質問紙調査によって得られたデータの統計解析を行うと同時に、インタビュー調査の結果に対する分析・解釈に鋭意取り組んでいるところである。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

研究の1年次より3年度間にわたり毎年度、同一対象者(約90人)に対して質問紙調査を実施することができたから。また、国内の四年制大学に対してインタビュー調査を毎年度実施するとともに、大学4年生対象のインタビュー調査も実施できたから。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度の平成23年度においては、以下のとおり研究を実施する予定である。

(1) 大学4年生のキャリア発達に関する質問紙調査(第4回目)を実施する。調査対象者は、過去3回のアンケート調査に協力してくれた学生の内、追加調査協力許可書を提出した大学4年生(87人)である。

(2) 上記対象者(協力許可書提出者)に対して、アンケート調査で質問できなかった詳細な内容(たとえば、大学生活の様子など)についてインタビュー調査を行ない、大学4年間にわたるキャリア発達の変容を把握する。

(3) 国内外の四年制大学対象のインタビュー調査を引き続き実施する。

(4) 同一の学生を対象に行ったアンケート調査とインタビュー調査などを総合的に判断し、大学生の4年間のキャリア発達状況を明らかにするとともに、それに基づいて、キャリア形成支援のための大学用プログラムを最終的に作成する。

(5) 関連学会等において研究成果を発表するとともに、シンポジウム等を開催し本研究の成果を公表する。そして、最終的には研究成果を研究報告書としてまとめる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

松井賢二、大学生のキャリア成熟に関する縦断的研究、日本キャリア教育学会第32回研究大会、平成22年11月14日、於：新潟大学。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕